問題1

今年、平成24年(2012)は、家康公が生まれて何年 目でしょうか?

(1) 400年

(2) 450年

(3) 470年

(4) 500年

解説 家康公が生まれたのは、天文11年(1542) 12月26日です。今年、平成24年(2012)は生

誕470年の節目の年にあたります。この記念すべき年に第3回目の家康公検定が実施され、大勢の皆さんが果敢に受験されたことは素晴らしいことです。しかし家康公生誕のころの岡崎は、松平一門が分裂し、たがいに争いを繰り広げる悲惨な状況でもありました。このような時に元気な産声を上げた公の誕生は、人々の希望そのものであり、早朝、公の誕生

をく神とがケさ伝こながのれ、「どま生にのなま生にのなませにののない。」



龍ヶ井(岡崎公園)

問題2

家康公が生まれた頃は群雄割拠の下克上の世の中で、幕府はあって無きがごときものでした。この時代の名目上とも言える武家の棟梁(征夷大将軍)は何氏だったでしょうか?

(1) 足利氏

(2) 上杉氏

(3) 新田氏

(4) 北条氏

解説

足利氏による室町幕府は、一般的には建 武3年(1336)に初代尊氏によって開かれ、

天正元年(1573)に15代義昭が織田信長によって追放されて滅んだとされています。足利政権は237年間続いたことになりますが、その間平和な時代はわずかしかありませんでした。特に8代将軍義政の継嗣争いから応仁元年(1467)に勃発した「応仁の乱」以降は、足利幕府の権威は失墜し、いわゆる「戦国時代」



足利義政像(東京国立博物館蔵)

す。

問題3

三河の平定を成し遂げた家康公の相父 松平清康 が生まれたのはどこでしょうか?

(1) 安城城

(2) 岩津城

(3) 岡崎城

(4) 松平城

家康公の祖先である松平氏は、初代親氏 が松平郷(豊田市)を発祥の地としてその歩

みを始めました。3代信光の時には拠点を岩津(岡 崎市)に移し、勢力を大きく拡大します。なかでも、 **難攻と言われた安城城を奇略によって落とし、三男** であった親忠を城主としました。親忠は岡崎を襲っ た加茂郡(豊田市域)の武士や、駿河の今川氏などを 退けたことから、松平一門の信頼を得て宗家の4代 目として認められるようになり、拠点は安城へと

移ったので す。家康公 の祖父清康 は親忠の會 落にあたり、 安城で生ま れました。



安城城址(安城市)

問題4

清康は大永3年(1523)に若くして松平家の当主と なりますが、そのときの年齢は次のどれでしょう D ?

(1) 10歳

(2) 13歳

(3) 17歳

(4) 20歳

清康の父である松平宗家6代目の信忠。 松平家の勢力拡大に尽力しましたが、大久

保彦左衛門著の「三河物語」によると、信忠は暗愚な 性格で、慈悲の心もなく、当主として不足があった と記されています。やがて、松平一門や家臣たちの 支持が得られないことを悟った信忠は、自分の嫡子

清康に家督を譲り、 隠居してしまいます。 わずか13歳で7代目 当主になった清康は. 翌年には山中城(岡 崎市)を攻め落とし、 岡崎城を明け渡させ ます。岡崎を拠点と した清康は、ここか ら破竹の勢いで三河 統一を果たします。



松平清康像(隋念寺蔵・岡崎市門前町)

解答… (2)

問題5

大永4年(1524)、清康の岡崎入城に功のあった大 久保忠茂は、新しい城下町の繁栄をはかるため、 大手門前に「楽市楽座」を開き、ここに新しい商人 の町が誕生しました。三河の中心商業地として発 展することになるこの町は何町と呼ばれたでしょ うか?

(1) 康生町

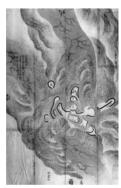
(2) 伝素町

(3) 門前町

(4) 連尺町

解説 大永 4 年(1524)、岡崎への進出を企てた清康は、岡崎松平信貞(西郷信貞)の城でもあった山中城を攻めます。このとき周辺地域を支配地としていた大久保(宇津)忠茂の活躍により、難攻と言われた山中城を一晩で攻略することに成功しま

した。忠茂はその褒賞として領内の市の管理を任されることになり、現在の連尺町付近に楽市・楽座の高札を掲げて最初の商人町を作りました。このことを「岡崎開市」と呼んでいます。これ以降、商家は増え続け、江戸時代には東海道でも指折りの城下町として発展しました。



羽栗(山中)諸国古城図 (広島県浅野文庫蔵)

問題6

享禄3年(1530)の正月、清康はある文字を左手に 握る夢を見ました。

それを龍渓院の僧に尋ねたところ、その文字は「天下人」を意味し、清康自身か近い子孫が天下を取るだろうと予言しました。その文字とは次のどれでしょうか?

(1) 是

(2) 徳

(3) 寅

(4) 龍

解説 享禄3年(1530)の正月、清康は「是」の字を手に握る夢を見ました。その事を龍渓院の僧、模外に相談したところ、「『是』という字は、『日の下の人』と書き、これを手にするという事は、天下をその手に取るということを示します。一代でな

くとも、必ず三代のうちに天 下統一を成し遂げるでしょ う」と言いました。これを聞 き、清康は喜んで、新たに龍 海院を創建して摸外を開基と しました。市内にある龍海院 は、今も別名「是の字寺」と呼 ばれ、当時の清康の戦国武将 としての強い思いがうかがえ ます。



是の字寺碑 (龍海院・岡崎市明大寺町)

問題7

享禄3年(1530)、清康が安城から薬師堂など六坊を移転し、岡崎城の鬼門守護とした寺はどこでしょうか?

こうざん じ 日 山寺

(2) 随念寺

(3) 大樹寺

12

(4) 大林寺

解説 現在地に岡崎城を構築した清康は、鬼門 の守護として安城から甲山寺六坊を移転し

ました。また、広忠も法性寺六坊をこの地に移築し、一山十二坊という東海地方でも最大級の寺院となりました。岡崎市の指定文化財となっている「護摩堂」は、家康公が再建した後、5代将軍綱吉によって改築されたものです。したがって「甲山寺」というのはもともと安城にあったもので、現在でもその地名が残されています。



甲山寺護摩堂(岡崎市指定文化財・岡崎市六供町)

問題8

天文4年(1535)、清康が松平氏の菩提寺 大樹寺 に造営した多宝塔には、先祖の姓で清康の名前が 記されています。その姓とは次のどれでしょう か?

(1) 世良田

(2) 徳川

(3) 藤原

(4) 源

解説

天文 4 年 (1535)、清康は尾張への進出を 前に、菩提寺である大樹寺に多宝塔を建立

の建造物です。清康は 意識を行い、「連修 の寄進を行い、「逆修 供養」(生前供養)を行い、「逆修 はた。心柱に「世良に「世良に」の のののではない。 が一段ではいますでに「後年 ないのではない。 では、図をにはない。 では、図をにはない。 では、図をにはない。 では、図をにはない。 では、図をにはない。 ではない。 では



大樹寺多宝塔 (国重文・岡崎市鴨田町)

問題9

天文4年(1535)、いよいよ尾張への進出を開始し、 尾張領内に陣を構えていた清康は誤解から家臣に 暗殺され、その三河支配体制は一気に崩れてしま います。陣を構えた場所から、これを何と言うで しょうか?

(1) 熱田崩れ

(2) 清洲崩れ

(3) 丸山崩れ

(4) 守山崩れ

解説 三河統一を果たし、尾張進出に向けてさらに兵を進める清康は、織田信秀を攻略す

るために守山(尾張)に出陣しました。その頃、松平家の家臣達の間にはある確執がありました。主に外交などを任されていた家臣の阿部定吉が、その役割柄、織田に内通しているのではないかという噂があったのです。定吉の身を案じていた息子の弥七郎が、尾張本陣で暴れ馬を清康が抑えようとした時に、

父が成敗される騒ぎ と勘違いしていました。 偉大な主を失った松 平家は、これとります。これを「守山崩れ」といいます。



守山城址(名古屋市守山区)

問題10

清康の遺体は岡崎に戻って茶毘に付され埋葬されました。後年、家康公はこの地に一寺を建立しますが、その寺は何と言うでしょうか?

(1) 松応寺

(2) 隨念寺

(3) 滝山寺

(4) 大樹寺

解説

殺害された清康の遺体は、「菅生の丸山」 で荼毘に付されたという記録が残されてい

ます。永禄 5 年 (1562)、岡崎城主となっていた家康公は、この地に隨念寺を建立し、清康の菩提を弔いました。そしてもう一つ忘れてはならないのが、清康の隣に葬られた妹の於久 (久子) のことでしょう。守山崩れに伴い足助の鈴木氏から離縁され岡崎城に戻った於久は、竹千代を母代りとなって養育し、家康公が人質から解放されて自立するまで城を守り続けました。死に際に清康の傍に葬ってほしいという

遺言を残したことから、現在でも二人の墓がでれるのではいるのは、これでいるのはいるのにはいた。 がきないます。

解答… (2)



隨念寺(岡崎市門前町)

問題11

家康公の母 於大の実母で、政略結婚で清康の継 室(後妻)となった家康公の祖母は誰でしょうか?

(1) 華陽院

(2) 高台院

(3) 随念院

(4) 伝通院

解説 華陽院と言う名で知られる家康公の祖母。 源応尼、於富とも呼ばれています。華陽院

は、刈谷の武将水野忠政の妻で、5人の子をもつ母でもありましたが、当時勢いのあった松平清康が刈谷を攻略した後に、清康の元に嫁いだとされています(結婚に至る経緯は諸説あり)。その後、清康が亡くなってから衰退の一途をたどる松平家でしたが、清康の嫡男広忠と、刈谷にいた華陽院の実娘の於大

が結婚しました。於大は 竹千代(家康公)を産んだ 後に離縁となりますが、 華陽院は竹千代の人質時 代には駿府に同行して 育をしています。三代に わたって家を支えた華陽 院。松平家の一番辛く、 厳しい時代を女性の身で 守りました。



源応尼像(龍拈寺・豊橋市)

問題12

清康の死後、一族の松平信定に岡崎城を追われた幼い広忠(家康公の父)は、天文6年(1537)に、ある有力大名の支援を得て岡崎城に戻ることができました。広忠の後ろ盾となった有力大名とは次の誰のことでしょうか?

(1) 今川義元

(2) 織田信秀

(3) 武田信虎

(4) 北条氏康

解説 広忠の幼名は千松丸といいます。清康が守山で死去した時にはまだ10歳の少年でし

た。やがて桜井松平家の松平信定が、松平宗家の当主の座を狙って、岡崎に入り込みました。命の危険を察した千松丸は重臣の阿部定吉に護られて岡崎城を脱出、伊勢から東三河、遠江、駿河と各地を流浪

することになります。 さいます。 さいます。 さいます。 では、 岡崎城に残がらろに を得て、無事岡崎城主 を得て、無事岡崎城主 を得ていた松平信定と なっていた松平信定と 松丸(元服はして 松丸(元服はして 松丸(元服はして と和睦 とます。



今川義元像(臨済寺・静岡市)

問題13

天文10年(1541)、松平8代 広忠は、隣接する水 野家との絆を深め松平宗家を守るため、水野家当 主 忠政の娘 於大を正室に迎えました。この水野 家の本拠はどこでしょうか?

(1) 安城城

(2) 刈谷城

(3) 名古屋城

(4) 吉田城

家康公の実母である於大はその出自に緒 川城(東浦町)説と刈谷古城(刈谷市)説の二

説があります。明らかなのは、刈谷城主水野忠政の 娘であるということですが、水野氏は緒川城と刈谷 城を有していましたから、そのいずれで生まれたと してもおかしくはありません。於大が岡崎の広忠に 嫁ぐ時には、水野忠政は刈谷城を本拠地としていま した。岡崎城で母の華陽院と再会するという話は、

その時点では 華陽院はすで に他家に再嫁 しており虚構 です。於大を 迎えたのは清 康の妹である 於久でした。

18



刈谷城址(刈谷市亀城公園)

問題14

天文11年(1542)と17年(1548)の2回にわたり、今 川軍と織田軍とが岡崎市内の同じ場所で合戦を 行っています。同盟軍の先鋒として広忠が率いる 松平勢も参戦したこの戦いは何と呼ばれるでしょ うか。

- (1) 小豆坂の戦い
- (2) 井田野の戦い
- (3) 桶狭間の戦い
- (4) 三方ヶ原の戦い

尾張の織田氏と駿河の今川氏が直接激突 解説 した合戦は、二度の小豆坂の合戦と、有名 な桶狭間の合戦です。第一回目の小豆坂の合戦では、 岡崎への進出を試みた織田信秀と、救援に駆けつけ た今川義元が衝突したもので、家康公が生誕した天 文11年(1542)に起こりました。二回目はそれから6 年後の天文17年(1548)に、同様の衝突が起きていま

す。いずれの合戦 も織田・今川とも ほぼ互角の戦いを しており決着はつ きませんでした。 後の桶狭間合戦の 前哨戦ともいえる 戦いが岡崎で起き ていたのです。

解答… (1)



小豆坂古戦場[血洗い池|碑(岡崎市戸崎町)

問題15

家康公の母 於大は家康公を出産する前に、ある 寺社の薬師堂に参籠し、戦国の世を終わらせ、平 和な世をもたらす男子を授かりたいと祈願しまし た。ある寺社とはどこのことでしょうか?

(1) 信光明寺

- (2) 加茂神社
- (3) 鶴岡八幡宮
- (4) 鳳来寺

解説 家康公の母、於大は戦国乱世を終わらせる強い子を授かりたいと思い、鳳来寺(新城市)へ男子出産の祈願に行きたいと願い出ました。鳳来寺は険しい山の上にあり、当時は女人禁制でしたが、於大の方の思いは強く、願いは聞き入れられました。祈願の後、間もなく於大は子を授かります。天文11年(1542)12月26日、元気な男の子が誕生します。竹千代と名付けられたこの子は後の徳川家康公です。竹千代が生まれて間もなく、鳳来寺の薬師如

来を守る十二神将の一人、真達羅大の一人、真達羅大の事件が起きまける。 が姿を消すさまいた。 た。人々はこの神様の生まれ変わりだと信まれぞうです。



鳳来寺薬師堂(新城市)

問題16

天文13年(1544)、広忠は於大を離縁し水野家に帰しました。離婚の理由は代替わりして当主となった於大の兄 水野信元が松平家の敵方になったためです。水野家はどの大名に付いたのでしょうか?

(1) 今川家

(2) 織田家

(3) 武田家

(4) 豊臣家

解説 於大の父である水野忠政は、織田家から の独立を保とうとしていましたが、長男の

信元はそれに反し、織田家に追従しようと考えていました。忠政が死去すると信元は直ちに織田方についたので、妹(血の繋がりはない)でもある於大は今

解答… (2)



於大の像(椎の木屋敷跡・刈谷市)

21

問題17

於大が離別されたあと、人質に出されるまでの幼い家康公(竹千代)を養育した於久とは、どのような関係の女性でしょうか?

(1) 清康の妹

(2) 広忠の妹

(3) 於大の妹

(4) 家康公の姉

解説 家康の祖父、松平清康の妹「於久」は家康 公の大叔母にあたります。守山崩れに伴い

定助の鈴木氏から離縁され岡崎城に戻った於久は、 竹千代の母・於大が岡崎を去った後、幼い竹千代を 母親の変わりとなって育て、今川の人質から解放さ れて自立するまで城を守り続けました。また、駿府 の竹千代が元服し、元信と改名した時に、岡崎の領 主権を主張するために、元信の名前と印(黒印)で大 泉寺(岡崎市中町)の制札を発給しています。この時

の署名が「しん さう」となって おり、於久のこ とであることが 判明しています。



清康と於久の墓(隨念寺・岡崎市門前町)

問題18

天文16年(1547)、広忠は嫡男 竹千代(家康公)を 人質として同盟国に送る途中、敵国に竹千代を奪 われてしまいます。竹千代を奪われた広忠が、こ のあとにとった行動は次のどれでしょうか?

- (1) 同盟先とのこれまでの盟約を貫いた
- (2) 竹千代の身を案じ同盟先を変更した
- (3) 敵方と身代金交渉を行って人質を取り返した
- (4) 敵方の子を捕らえ、人質交換を行った

解説 岡崎の危機に際し、今川義元は救援軍を 出す代わりに人質を送るよう求めてきまし

た。松平家のために我が子竹千代を差し出すという苦渋の決断をした広忠でしたが、駿府へ向かう途中、田原の戸田氏に略取され尾張の織田家に送られてしまいます。織田方は広忠の帰順を催促しますが、広忠は「一度我が手を離れた者。いかようにもなさるがよい」(松平記)と毅然とした態度で拒否をしました。結果、今川義元は広忠の決意に感心し、無条件

で救援軍を出したのです。 広忠の強固な決意が岡崎を 救ったともいえます。

八歳の竹千代が、亡き広忠の墓を建て る目印に置かせた石と伝わる



獅子ヶ石(大林寺・岡崎市魚町)

問題19

天文17年(1548)、実家に戻っていた於大は、兄 水野信元の意向で知多郡 阿久比の坂部城主のも とに嫁ぎました。於大の再婚相手は誰でしょう か?

(1) 奥平貞俊

(2) 佐治一成

(3) 戸田康光

(4) 久松俊勝

久松氏は知多阿久比町を中心とする在地 武士で、織田氏に与力していました。広忠 との離縁により刈谷に戻された於大は、しばらく城 郭内の「椎の木屋敷 | と呼ばれる所に居住していまし たが、その後久松氏に再嫁したのです。後年、家康 公と織田信長との間に同盟が結ばれると、久松俊勝 は家康公の与力として岡崎城に移りました。その後、 西郡(蒲郡市)鵜殿氏の上ノ郷城攻めに軍功を挙げ、

トノ郷城主と なります。そ の子どもたち は松平姓を許 され、久松松 平家として存 続しました。



坂部城址(阿久比町)

問題20

尾張 熱田に人質として置かれていた竹千代(家康 公)に対し、母 於大はどのような行動をとってい たと伝わるでしょうか?

- (1) 離縁した前夫との子なので、なんの気遣いもしなかった
- (2) 家人を介して衣服や食物を差し入れるなど、わが子の成長を気遣った
- (3) 季節ごとに竹千代のもとを訪れ、なぐさめた
- (4) 何日間かは阿久比の坂部城に招いて弟たちといっしょに遊ばせた



於大は岡崎を離縁され、幼い竹千代(家 康公)を残して実家の刈谷に帰りました。

しばらくして阿久比(知多郡)の久松俊勝と再婚した 於大は、三男三女をもうけて新たな道を歩みますが、 竹千代を決して忘れたわけではありませんでした。 於大は人質生活を送る竹千代をなにかと気遣い、季 節の衣服や食物などの差し入れを続け、それは竹千 代が駿府に送られてからも変わりませんでした。母 子が再会したのは、永禄3年(1560)今川義元の征西 (桶狭間の合戦)に従い、家康公が大高城に入った前

後と言われます。別れ たときには3歳だった 竹千代は19歳の青年武 将に成長していました。

離縁された於大が竹千代の成長 を祈ったとされる寺

解答… (2)



乾坤院(東浦町)

問題21

天文18年(1549)、広忠は岩松八弥によって暗殺されます。後年、家康公が父の菩提を弔うため、荼毘に付された地に建立した寺はどれでしょうか?

(1) 広忠寺

(2) 松応寺

(3) 随念寺

(4) 大樹寺

解説 家康公が幼かった頃の松平家の力は弱く、そのため幼かった竹千代は、父の広忠と離

れて織田、続いて今川家へと人質に出されました。 天文18年(1549)、広忠が暗殺されました。父の死の



松応寺絵図『三州松応寺御起立略記』 (慶長10年)

問題22

晩年は、駿南で人質生活を送っていた竹千代(家 康公)の近くに移り住み、竹千代が元服するまで の8年間、養育にあたった女性は誰でしょうか?

(1) 華陽院

(2) 高台院

(3) 随念院

(4) 伝通院

解説

家康公の祖母の華陽院は、母のいない幼い竹千代(家康公)の力になるために、三河

から人質先の今川氏の領地である駿府へと行きました。華陽院は竹千代の住む少将宮近くの庵に住み、家康公を8歳から16歳まで養育しました。特に読み書きなどの手習いは庵に隣接していた智源院で行わせたと伝わり、この時の机や、硯、手習いの書などが岡崎の法蔵寺に残されていると記す史料もあります(「改正三河後風土記」)。華陽院は、元服して成長した家康公を見届けてから亡くなりました。後世、

家康公によってこの智源院に葬られ、 寺名も華陽院となりました。

後年家康公が祖母華陽院 のために墓を建て、寺名 も智源院から華陽院に変 えた



華陽院の墓(華陽院・静岡市)

問題23

弘治3年(1557)、家康公の正妻となった瀬名姫(後の築山殿)はある有力な武将の姪といわれますが、その武将とは誰でしょうか?

- (1) 今川義元
- (2) 上杉謙信
- (3) 織田信秀
- (4) 武田信玄

解説 家康公が結婚したのは、弘治3年(1557) 16歳の時。相手は今川義元の姪といわれる

瀬名姫(後の築山殿)です。父は今川一族の関口義広であり、母親は今川義元の妹と伝えられます。したがって瀬名姫は義元の姪にあたるわけです。一般的

には人質として冷遇され、 我慢を重ねて育った竹千 代の様子が語られますが、 実際は義元によってを施され、で多川の様子を れ、さらに瀬名姫とのて り立てられた様子が伺え ます。

「井伊家伝記」によれば、築山殿の 母は井伊家当主井伊直平の娘とあ り、近年はその説も取り上げられ ている



築山殿(西来院蔵・浜松市)

問題24

永禄元年(1558)、元信と名乗っていた家康公は、 崇敬する祖父 清康の一字をもらって名を変えま した。改名して名乗った名前はどれでしょうか?

(1) 家康

(2) 信康

(3) 秀康

(4) 元康

解説 家康公の名前は4つあります。幼少期は 竹千代です。この名は松平宗家5代長親以

来、徳川将軍家 4 代家綱まで「世子」に代々付けられていました(松平 8 代広忠については竹千代の他に「千松丸(大樹寺文書)」などの説があります。また 2 代将軍秀忠は当初は「長丸」)。14歳で元服をすると「元信」を名乗ります。そして永禄元年(1558)には「元康」に改名。義元の「元」と清康の「康」を名前にしました。家康に改名したのは永禄 6 年(1563)、今川家

との決別から 「元」の決議を き、源義を付けたと記すの はたとます(では 正三河後 記し)。



松平元康像(岡崎公園)

問題25

家康公は正室 築山殿との間に何人の子を授かっ たでしょうか?

(1) 0人

(2) 1 人

(3) 2人

(4) 3人

家康公と築山殿の間に生まれた子供は、 信康と亀姫の2人です。いずれも駿府の館

で誕生しており、結婚して3年の間に生まれたこと になります。身内の少ない家康公にとって子供の誕 生は大きな喜びだったと思いますが、永禄3年 (1560) 桶狭間の合戦に出陣した後に岡崎城主として 自立を果たすと、駿府に残された妻子3人は今川氏 の人質同然となってしまいます。家康公は西郡(蒲 郡)の鵜殿長昭を攻め、子の氏長と氏次を捕えて妻

子3人との交 換に成功しま した。3人が 岡崎に迎えら れたのは永禄 5年(1562)、 離ればなれに なってから3 年目のことで



岡崎三郎信康像(勝蓮寺蔵・岡崎市)

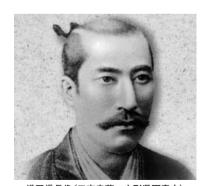
問題26

永禄10年(1567)、家康公の長男 信康に嫁いだ徳 姫の父は誰でしょうか?

- (1) 今川義元
- (2) 織田信長
- (3) 武田信玄
- (4) 北条氏直

家康公と織田信長は永禄5年(1562)に軍 事同盟(清洲同盟)を結びます。その後、両

家の関係をさらに強固なものにするために、永禄10 年(1567)に家康公の嫡男・竹千代(後の信康)と信長 の娘・徳姫が結婚しました。竹千代も徳姫もまだ9 歳という子供でした。徳姫の母は牛駒吉乃であり、 兄に信忠、信雄、信孝がいます。信康切腹後は岡崎 城を離れ、信雄の庇護を受けたとも伝わりますが、 晩年は京都御所の近くに屋敷を与えられ「岡崎殿」と 称したとも伝わります。



織田信長像(三宝寺蔵・山形県天童市)

した。

問題27

32

元亀元年(1570)、家康公が浜松に居城を移したこ とに伴い、岡崎城主となったのは誰でしょうか?

- (1) 家康公の長男 信康 (2) 石川数正
- (3) 酒井忠次
- (4) 本多重次

元亀元年(1570)、家康公は東への勢力拡 大のために、12歳になった長男の信康を元 服させてから浜松城に居城を移しました。信康は岡

崎城主として、傅役であった平岩親吉や西三河旗頭 の石川数正などの重臣達を側近として岡崎領内を治 めることになりました。天正元年(1573)、15歳になっ た信康は武田方の武節城を攻め落とし見事初陣を飾 りました。三方ヶ原で家康公が大敗した翌年のこと です。家康公や家臣たちの信頼を得た信康は、これ 以後父とともに各地で戦に出て活躍しました。



信康初陣の武節城址(豊田市武節町)

問題28

天正 2 年 (1574)、築山殿の侍女 於万(後の小督局) が出産した家康公の二男の幼名はどれでしょう かっ

(1) 於義丸

(2) 竹千代

(3) 長丸

(4) 松千代

於義丸は天正2年(1574)、家康公の二男 として浜松の宇布見村に生まれました。母 はお万の方(小督局)で、築山殿の女中であったとい います。お万の方は身籠った時点では側室ではあり ませんでしたので、浜松城内での出産を許されず、 本多重次(作左衛門)の世話で、宇布見村の代官でも あった中村正吉の屋敷で於義丸を生んだと伝わりま す。3年後に、長男・信康の取り計らいもあり初め て家康公に謁見することができました。後の結城秀

康です。



中村家住宅(国重文・浜松市西区雄踏町宇布見)

問題29

天正4年(1576)、家康公の長女 亀姫は、長篠の 合戦で戦功のあった東三河の武将に嫁ぎます。関 ヶ原の合戦後、美濃 加納10万石の大名となった この武将は誰でしょうか?

(1) 井伊直政

(2) 奥平信昌

(3) 菅原定盈

(4) 山内一豊

奥平信昌は武田勝頼との長篠の合戦で、 長篠城を最後まで守った勇将です。奥平家はもともと「山家三方衆」の一家であり、武田氏に追従したり、松平家に追従したりと、戦乱の世を強かに生き延びてきた国人でした。信昌は長篠での軍功により家康公の長女を迎えることができ、以後は徳川家の譜代として忠義を尽くします。亀姫は奥平家を力強く支え、信昌が美濃加納城主となった時には「加納御前」とも呼ばれました。また後年、幕閣の本

多正純を改易させた「宇 都宮吊り天井事件」も、 正純によって孫忠昌が降 格転封されたり、娘が嫁 いだ大久保家を改易させ られた復讐に、亀姫が仕 組んだものとも言われて います。

34



亀姫(大法院・京都市)

問題30

天正7年(1579)、非業の死を遂げた築山殿の首は が行為した。 祐伝寺(岡崎市)に葬られましたが、江戸時代に別 の場所に移され現在に至ります。築山殿の首塚が ある別の場所とはどこでしょうか?

- (1) 滝山東照宮
- (2) 八柱神社

(3) 六所神社

(4) 若宮八幡宮

解説 築山殿が自刃した際、その首は直ちに織田信長のもとに届けられました。しかし信

長は一顧だにしなかったようです。築山殿の一命を賭しての信康助命嘆願は全く無視されてしまったと考えて良いでしょう。そもそも徳姫が讒訴したと伝えられる「十二カ条」の手紙そのものの存在が疑われ

解答… (2)



築山殿首塚(八柱神社・岡崎市欠町)

問題31

武田氏との内通の容疑で、長男 信康の処分を織田信長から命じられた家康公は、身の潔白を訴える信康の身柄を転々とさせますが、最後、信康は大久保忠世の居城にて切腹しました。信康の最後の地となったこの城はどこでしょうか?

(1) 上和田城

(2) 駿府城

(3) 高天神城

(4) 二俣城

解説 同盟関係にあった織田信長が、家康に今 川の血をひく妻、築山殿と嫡男信康の死を

命じました。家康公は妻子を守るため岡崎城にいる妻を浜松に呼び寄せようとしましたが、やむなく死にいたりました。息子の信康には岡崎から二俣城(浜松市)に行かせ、逃がそうとしましたが、信康は既に意を決していて、二俣城で自らの腹を切って自害しました。信康切腹の際、家臣の服部半蔵は悲しみ

のために介錯の刀 を振り下ろす事が できなかったと有望 な若殿を失った。 川家は深いました。

36



二俣城址(浜松市天竜区)

問題32

家康公の長男 信康の首塚がある岡崎市内の神社はどこでしょうか?

- (1) 伊賀八幡宮
- (2) 岡崎八幡宮
- (3) 山中八幡宮
- (4) 若宮八幡宮

解説

信康事件の概要については、ここでは省かせていただきますが、やはり何らかの陰

課が働いていたことは間違いないでしょう。徳姫との不仲説については、「十二カ条」の手紙で初めて知られたことではなく、以前から信長にも家康公にも悩みのタネであったようです。「家忠日記」(深溝松平家4代家忠が残した日記)にもそのあたりの様子が記されています。天竜二俣城で自刃した後は、やはり信長のもとに首が送られたと伝わりますが、築山殿と同様、石川数正によって若宮八幡宮に葬られ

ました。数正 にとって人質的 出の時から 別な思い入ので しょう。



岡崎三郎信康首塚(若宮八幡宮・岡崎市朝日町)

問題33

家康公が、長男の信康と親子で同じ戦場で戦った 合戦は次のどれでしょうか?

- (1) 小牧・長久手の合戦 (2) 関ヶ原の合戦

- (3) 長篠の合戦
- (4) 三方ヶ原の合戦

家康公の長男信康が父と共に戦場に登場 するのは、天正3年(1575)の長篠の合戦が

最初です。「改正三河後風土記」には、家康公の本陣 の備えに本多忠勝、榊原康政らと共に信康の名が記 されています。合戦に勝利した家康公は、同年8月 に遠江・駿河の統一に乗り出しますが、小山城(静 岡県榛原郡吉田町)を取り囲んだ時、武田勝頼が息 を吹き返したように大軍で攻め寄せました。その際、 後退を全儀なくされた徳川軍の殿を自ら名乗り出た のが信康です。最も危険な任務を見事に成し遂げた

信康を家康 公が称賛す る様子が 「徳川実記」、 「改正三河 後風土記 などの史料 に残されて います。

38



長篠古戦場祭り(新城市)

問題34

天正7年(1579)、家康公の三男 秀忠が誕生しま した。この秀忠を出産した家康公の側室(俗称 於 愛)とは次の誰でしょうか?

(1) 小督局

(2) 春日局

(3) 西鄉局

(4) 茶阿局

於愛の方の通称で知られる西郷の局は、 家康公の側室であり最愛の女性であったと

も伝わります。もともとは五本松(豊橋市)西郷正勝 の娘が西郷局の母になりますが、父は掛川(掛川市) の戸塚忠春であり、いずれの地で生誕したのかは諸 説があります。最初の結婚で従兄にあたる西郷義勝 に嫁ぎますが、義勝が若くして戦死すると、叔父の

西郷清昌の養女と なりその庇護を受 けます。後に家康 公から望まれて側 室となり、三男秀 忠、四男忠吉の生 母となりましたが、 天正17年(1589)、 38歳の若さで亡く なりました。

解答… (3)



西郷局(宝台院蔵・静岡市葵区)

問題35

天正10年(1582)、本能寺の変の後、家康公は素早い動きで主がいなくなった近隣の2ヶ国を鎮圧し、これまでの三河・遠江・駿河に合わせ五ヶ国の大大名となります。新たに領国とした2ヶ国とはどこでしょうか?

- (1) 伊豆と甲斐
- (2) 尾張と美濃
- (3) 甲斐と信濃
- (4) 信濃と美濃

解説

織田信長が支配していた甲斐と信濃は、 もともと武田氏の領国でした。信長は武田

勝頼を天目山で滅ぼすと、信濃国には毛利長秀や森長可を、甲斐国には川尻秀隆を領主として送り込み領国の支配を目論みました。しかしその体制がぜい弱なうちに本能寺の変が勃発、各地で武田遺臣による一揆が頻発したのです。毛利長秀や森長可は美濃まで逃げ帰りましたが、甲斐の川尻秀隆は一揆によって殺害されてしまいました。家康公はこの二カ

国の安定的な統治を目指して出兵し、武田遺臣たちを徳川の家臣として仕えさせるなど鎮撫しました。結果、三河・遠江・駿河・甲斐・信濃五カ国を領有する一大勢力となっていったのです。



武田信玄の菩提寺「恵林寺」 (山梨県甲州市)

問題36

天正12年(1584)、家康公は小牧・長久手の合戦の 講和の印として、二男を養子として差し出します。 この二男が、養子先で元服して名乗った最初の氏 名は何だったでしょうか?

(1) 織田秀康

(2) 徳川秀康

(3) 羽柴秀康

(4) 結城秀康

解説 小牧・長久手の合戦では、長久手の高地 戦では徳川方が勝利したものの、秀吉と家 康公双方のにらみ合いが続き、戦の決着をつけることなく兵を引くことになります。これは家康公が与 力した織田信雄が秀吉と和睦したことで、戦の名目 が失われたからに他ならず、決して屈したわけでは ありませんでした。しかし秀吉は和睦の証に徳川方

から人質を差し出すよう要求 してきたのです。家臣たちが ほとんどは反対しましたが、 現実的な兵力の差談義丸を 果、11歳の二男於義丸を養して大坂に送ることに のです。於義丸はその時な ので繋姓を名乗ることになりました。 たなりました。



羽柴秀康肖像 (知立神社蔵・知立市)

問題37

天正14年(1586)、豊臣秀吉は、正室を亡くしていた家康公に、既に他家に嫁いでいた実の妹を離婚させ、継室(後妻)として嫁がせました。この秀吉の妹の名は次のどれでしょうか?

(1) 朝日姫

(2) 小松姫

(3) 茶々姫

(4) 初姫

解説 朝日姫は秀吉の妹ですが、異父説と同父 説があり詳細は明らかではありません。秀 吉と同じ尾張の農民でしたが、秀吉の出世に伴い夫

は武士に取り立てられ幸せな日々を過ごしていました。ところが、天正14年(1586)、兄である秀吉が家康公を懐柔するために夫と離縁させられ、家康公のもとに後妻として嫁がされたのです。2年後の天正16年(1588)には母の病気見舞いを理由に上洛し、そのまま京都に滞在しました。強制的な離婚などによ

る精神的な苦痛 もあり、病気が ちで遂には母に 先立って死去し てしまいます。

42.



朝日姫の墓所「南明院」(京都市東山区)

問題38

秀吉は、妹を嫁がせても上洛して臣下の礼をとらない家康公に対し、さらに生母の大政所を家康公のもとに送りこむことでその思いを達します。このとき、大政所と家康夫妻が対面し、家康公が上洛中、大政所が娘とともに滞在したのはどの城でしょうか?

(1) 江戸城

(2) 岡崎城

(3) 浜松城

(4) 駿府城

解説

解答… (2)

秀吉の母である大政所が、家康公に嫁い だ娘の朝日姫を心配して岡崎城まで出向い

た話は有名ですね。このことにより家康公は秀吉に 謁見することを決意したと言われていますが、実際 は家康公の身の安全を保障する証として、大政所を 岡崎まで派遣したというのが正しいでしょう。岡崎

城では城代を勤めていた本多重次が、屋敷のまわりに 竹矢来を組み薪を積んできる 「殿の身に何かあれば」と脅したという言い伝えがあります。この時は井伊直政が ます。この時は井伊直政があがいたとも伝える。 他川家臣団の絶妙な連携が伺えます。



大政所(大徳寺蔵・京都市北区)

問題39

家康公の母於大が再婚相手の死後(天正15年 (1587))、剃髪して称した名前(法名)は何だったでしょうか?

(1) 華陽院

(2) 高台院

(3) 随念院

(4) 伝通院

解説 中世、特に戦国期の武家の女性たちには、 家系譜にも具体的な通称は記されていませ

ん。於大という通称も記されておらず、残された手紙などの署名から類推するしか方法がありません。 代わりに、多くは法名が記されており(寛政重修諸家譜など)、正式には名前を法名で表す場合がほとんどです。例えば、大河ドラマの主人公にもなった

「江姫」は「崇源院」が正しい表記の仕方になります。 於大も「伝通院」が正式な名ということになりますが、菩提寺名にもなっている場合が多く、現在東京小石川に「伝通院」があります。静岡の「華陽院」などもそうですね。



伝通院墓(伝通院・東京都文京区

問題40

天正17年(1589)頃、家康公の養女となって真田信之に嫁いだ女性で、関ヶ原の合戦を前に、敵となった義父 昌幸が居城の上田城に向かう途中、孫の顔を見たいと信之不在の沼田城に立ち寄った際、父といえども敵となった以上は城には入れられないと武装して断固拒絶した本多忠勝の娘(幼名 稲姫)は誰でしょうか?

(1) 勝姫

(2) 小松姫

(3) 督姫

(4) 振姫

解説

小松姫には問題文にあるような逸話が残 されており、「筋を通した女傑」という姿が

語られますが、義父・昌幸を沼田城から追い返した後、付近の正覚寺で密かに孫に対面させたとも伝わり、女性としての優しさを兼ね備えた、賢い人物像



小松姫(稲姫)

問題41

天正18年(1590)、豊臣秀吉に実子 鶴松が誕生す ると、秀吉は養子にしていた家康公の二男 秀康 を関東の大名家に養子に出しました。秀康が2度 目の養子に入ったのは何家でしょうか?

(1) 佐竹家

(2) 里見家

(3) 伊達家

(4) 結城家

豊臣秀吉の小田原攻めに際して、茨城県 結城市に居城を持つ結城晴朝は秀吉に味方 し、所領を安堵されました。結城家は室町時代には 守護職を務めたほどの名家で、秀吉はその名声を利 用し、秀康を結城家の婿養子とすることで、秀吉と 秀康の養子縁組の解消を図ると同時に、家康公の関 東移封を納得させる一助にもしたのです。秀康をた だ徳川家に帰すのでは筋が通らず、家康公の新領と なった関東6カ国240万石に加え、結城氏の所領11

万1千石を秀康の持参金とすることで体面を繕った

のです。そこまでし て豊臣の後継者とし た鶴松でしたが、秀 吉の期待も空しく、 わずか3歳で早世し てしまいました。

46



結城城跡公園(茨城県結城市)

問題42

文禄元年(1592)、日本統一を果たした豊臣秀吉は 次に中国大陸准出を目指し、朝鮮に出兵します。 このとき家康公の男子で出兵したのは誰だったで しょうか?

(1) 信康

(2) 秀康

(3) 秀忠

(4) 忠吉

文禄・慶長の役に出兵したと言っても、 海を渡り李氏朝鮮国に攻め込んだわけでは ありません。文禄元年(1592)2月、結城秀康は家康 公に従い、1500人の兵を率い出陣、豊臣秀吉が渡海 のための前線基地として築いた肥前名護屋城(佐賀 県唐津市)の城下に陣を張りました。家康公が自ら 渡海すると言い出した秀吉を涙ながらに諌めたのは この時の事です。秀康の名護屋在陣は翌年まで続き、 その間、在陣する諸藩のかがり火の見回りを一夜も

欠かさなかったとい う逸話が残っていま す。この時、在陣し た大名は160家を数 え、確認されている 陣跡だけで118カ所 にも上ります。



朝鮮出兵の拠点「名護屋城跡」 (佐賀県唐津市)

問題43

文禄 4 年(1595)、家康公の三男 秀忠は於江と結婚しますが、この結婚は誰の意志だったのでしょうか?

(1) 於江

(2) 徳川家康

(3) 徳川秀忠

(4) 豊臣秀吉

解説 文禄 2 年 (1593) 8 月に秀吉の側室淀殿が 大坂城で秀頼を出産すると、秀吉は豊臣政

権の後継者を秀頼とし、秀頼中心の体制を盤石とする事に腐心し始めました。淀殿の実の妹の於江を秀忠に娶らせる事は、秀忠を秀頼の叔父とする事で、秀忠には縁戚として秀頼を補佐する責務が生じ、家康公と朝日姫の婚姻に加え、豊臣と徳川の縁戚関係を深めるものでした。秀忠と於江の結婚は、豊臣政権の永続を願う秀吉の意志による政略結婚でしたが、

そうした思惑とは関係無く、秀忠と於江が円満な家庭を築いた事が、後に平和な江戸時代の基礎を固める事となったのです。

48



崇源院像(養源院蔵・京都市東山区)

問題44

秀忠の妻 於江の母は信長の妹の於市ですが、父 は誰でしょうか?

あざい ながまさ

(2) 朝倉義景

(3) 明智光秀

(4) 藤堂高虎

解部

於江の母の於市は兄織田信長の意志で、 北近江を勢力圏としていた浅井長政との同

盟を強固なものとするため、長政の元に嫁ぎました。この時、信長は、やはり長政と同盟関係にあった朝倉義景との不戦を約束しましたが、元亀元年(1570)4月になるとこの盟約を破り、朝倉氏の城を攻めました。織田徳川連合軍と浅井朝倉連合軍が戦ったのが姉川の合戦で、この戦いに敗れた長政は以後劣勢

となり、元亀4年(天正元年(1573))9月に信長に居城の小谷城(滋賀県長浜市)を攻められ、役長政は自刃して果てました。於江が誕生したのはこの年で、母於市と浅井三姉妹は城を出され信長のもとに送られました。



浅井長政像 (高野山持明院蔵・和歌山県高野町)

問題45

豊臣秀吉の側室は、於江の実の姉(三姉妹の長女) ですが、その姉とは誰でしょうか?

(1) 於初

(2) 於松

(3) 千姫

(4) 淀殿

解説 母於市の美貌を受け継いだ浅井三姉妹は、 長女が淀殿、二女が於初、三女が於江です。

淀殿の幼名は茶々で、本能寺の変の後、母於市が再婚した柴田勝家が天正11年(1583)4月に賤ヶ岳の戦いで豊臣秀吉に敗れると、母於市は勝家と共に越前北ノ庄城(福井県福井市)で自刃、浅井三姉妹の運命は秀吉が握ることとなりました。淀殿が秀吉の側室となったのは天正16年(1588)頃で、母於市に憧れていた秀吉が、於市の面影を一番受け継いでいた淀殿を側室としたと言われています。豊臣氏と運命を共

にした淀殿です が、父浅井長で を母於市をします のが秀吉でもまった。 でするです。



淀殿(奈良県立博物館蔵)

問題46

慶長3年(1598)、朝鮮出兵のさなか豊臣秀吉が亡くなり、五大老筆頭だった家康公が真っ先に行ったことは次の何だったでしょうか?

- (1) 北九州への徳川軍の派遣
- (2) 朝鮮半島への援軍の派遣
- (3) 朝鮮半島からの全軍撤兵
- (4) 朔国への降伏

解説 文禄元年(1592)から慶長3年(1598)まで 続いた文禄・慶長の役は、日本の戦国時代

を海外に輸出したようなものでした。明の冊封国として平和の中にあった李氏朝鮮国は戦に不慣れで、 当初こそ破竹の勢いの豊臣軍でしたが、明国の援軍 に加え、各地で義勇兵が蜂起し、秀吉が没した慶長 3年にはどの武将の軍も士気が落ち劣勢となってい ました。家康公は撤兵を円滑に行うため、秀吉の死 を秘密にし、最大限の兵を生還させたのです。また、 家康公は対馬の宗氏に命じ李氏朝鮮国との和睦を図

り、慶長12年(1607) になってやっと李氏 朝鮮国から総勢467 人に上る大使節団の 招聘を実現させました。



明暦元年(1655)朝鮮通信使の図(部分) (泉涌寺・京都市東山区)

問題47

慶長5年(1600)、木曽川渡河、岐阜城の戦いに始まる一連の関ケ原の合戦で、東軍の主戦力となったのは次のどのグループでしょうか?

- (1) 朝鮮に出兵した豊臣恩顧の武断派大名
- (2) 秀吉に反発を感じていた官僚派大名
- (3) 徳川恩顧の譜代大名
- (4) 徳川・松平一門

解説 文禄・慶長の役は豊臣秀吉が明国を征服 するための戦争でした。どの武将も海外の

領土の獲得を夢見て渡海したのですが、結果は惨憺 たるものに終わりました。武断派大名たちの中には、 朝鮮出兵の総奉行として秀吉の命令を伝達した官僚 の石田三成が責任を取ること無く、淀殿に重用され 続けることへの不満が鬱積していました。関ヶ原の 合戦の東軍勝利は、武断派大名たちの思いを理解で

きない三成がこれらの武将を 敵に回した結果です。また、 家康公に味方した豊臣恩顧の 武断派大名への恩賞を厚くし たのは、これら武将の領国経 営が安定することが、日本に 平和をもたらすと考えた家康 公の英断でした。

52



福島正則肖像画 (東京国立博物館蔵)

問題48

関ヶ原の合戦において、家康公の子供たちもそれ ぞれの役割を担いました。その中で、二男 秀康 が果たした内容は次のどれでしょうか?

- (1) 家康公本隊と行動を共にし、関ヶ原の本戦に参加した。
- (2) 徳川の別動隊として、秀忠と共に進軍し関ヶ原に向かった。
- (3) 会津の上杉景勝の抑えとして、関東に残り江戸を守った。
- (4) 単独で別動隊を率い、大坂城を攻めた。

解説 関ヶ原の合戦は天下分け目の合戦と言われるように、関ヶ原(岐阜県不破郡関ヶ原

町)だけの局地戦と考えてはその全容は捉えきれません。秀吉没後の体制を巡り全国の大名や武将の思惑が錯綜した時代にあって、家康公も石田三成が豊臣秀頼を担ぎ、自分を排除しようとする動きに敏感にならざるを得ませんでした。最近の研究では、主戦場となる関ヶ原の合戦には死を覚悟して自身が出陣し、秀忠が率いる徳川軍は合戦後の西軍の抑えを

課し、結城秀康には、家 康公と秀忠が共に関ヶ原 で敗死した最悪の状況に おいても、徳川家が存続 できるよう思慮遠望を 図ったとの考えが示され るようになっています。



結城秀康像(福井県庁)

問題49

関ヶ原の合戦に際して、徳川の本隊を率いた三男 秀忠がとった行動は、どのようなものだったで しょうか?

(1) 家康公とともに東軍の中心戦力として戦い、石田三成を捕らえた

(2) 関ヶ原の合戦に遅参し、結果として徳川譜代大名の温存につながった

- (3) 江戸城に残り、上杉景勝や佐竹義官など関東にいる豊臣大名を牽制した
- (4) 伊達政宗とともに会津の上杉景勝を攻め、陸奥を平定した

関ヶ原の合戦に遅参したことから、秀忠 解説 の武将としての評価は低いものとされてき

ましたが、関ヶ原の合戦は家康公により、秀忠の率 いる3万8千人の徳川軍を待たずに開始されている ことから、家康公が徳川譜代大名の温存を図ったと する考えが近年大きくなってきました。家康公の愛 読書『貞観政要』に「守成は創業より難し」の一節があ り、家康公ほどの人物が凡庸な人間を2代将軍にし

たとは思えません。家康公 の意志を忠実に守り、出来 たばかりの江戸墓府の基礎 を固めることが、秀忠に対 し家康公が期待したことで、 秀忠は律儀にそれに応え、 江戸幕府の体制を盤石なも のとしました。



徳川秀忠肖像 (松平西福寺・東京都台東区)

問題50

関ヶ原の合戦で、義父の井伊直政と共に、先鋒の 福島正則を出し抜いて活躍したものの、その後28 歳の若さで亡くなった家康公の男子はだれでしょ うか?

(1) 忠輝

(2) 忠長

(3) 忠吉

(4) 信吉

関ヶ原の合戦の主戦力が福島正則や山内 一豊、田中吉政など豊臣恩顧の武断派の大 名であったことから、徳川一門の武勇を示し、十気 を高める必要を感じた井伊直政は、家康公の四男で 娘婿の松平忠吉と共に、先陣の福島正則を出し抜い て西軍に攻撃をかけました。忠吉にとってはこれが 初陣で、薩摩の島津豊久を討ち取る戦功を上げ、武 蔵忍10万石から尾張清洲52万石に加増移封となりま した。井伊直政と松平忠吉は共にこの合戦で負傷し、

井伊直政は慶長7年(1602)に 銃創が悪化し、42歳で逝去し、 松平忠吉は慶長12年(1607)に 関ヶ原の合戦で受けた傷が悪 化し、28歳の若さでこの世を 去りました。

「直鋒」とは剣の切先のことであり、 自分が先頭を切って戦うと言う意味



松平忠吉所用「纏 (徳川美術館蔵・名古屋市)

問題51

関ヶ原合戦の後、二男の秀康は家康公より下総国 10万石から一躍67万石の大大名に取り立てられま した。秀康が賜った新しい領地はどこでしょう か?

- (1) 出雲国 松江
- (2) 越後国 高田
- (3) 越前国 北庄
- (4) 駿河国 駿府

関ヶ原には参戦せず、九州に留まり西軍 側の城を攻撃した加藤清正が、肥後熊本で

19万石から51万石と32万石の大幅な加増とされたよ うに、結城秀康も宇都宮に残り、上杉景勝を牽制し た戦功により、下総結城(茨城県結城市)11万1千石 から越前北庄(福井県福井市)67万石に加増移封とな りました。50万石を超える大幅な加増は徳川一門を 含めた全大名の中で唯一のもので、天下分け目の合 戦を関ヶ原の局地戦にとどめ、戦後処理を容易にし

た戦功は、九州の加 藤清正と同様に意味 のあるものでした。 結城秀康は越前松平 家の始祖となり、越 前松平家は御三家と 共に制外の家として の家格となりました。

56



北庄城址公園(福井市)

問題52

慶長6年(1601)、秀忠の二女 珠姫がわずか3歳 で嫁いだ外様大名は何家でしょうか?

- (1) 加賀 前田家
- (3) 長門 毛利家
- (4) 陸奥 伊達家

解答… (1)

家康公と共に豊臣政権の五大老の首座に あった前田利家は、慶長3年(1598)8月に

秀吉が没すると遺言に従い秀頼の傅役となり、家康 公を牽制する立場をとりました。高齢で健康の衰え ていた利家が翌4年3月に大坂城で亡くなると、家 康公は利家後継の利長に謀反の疑いを持ち、前田家 と対立する姿勢を見せました。これに対し前田家の

重臣たちは徳川家と和睦 する立場を選択し、利長 の生母を人質として江戸 に差し出し、代わって珠 姫を利長の養嗣子利常の 正室として迎える事とな りました。関ヶ原の合戦 でも在国のまま家康公を 支持する立場をとったた め、前田家は江戸時代を 通し外様筆頭の立場とな りました。



珠姫木像(天徳院蔵・金沢市)

問題53

慶長8年(1603)、秀忠の長女 千姫が7歳で嫁い だ相手はだれでしょうか?

(1) 豊臣秀頼

(2) 徳川義首

(3) 前田利常

(4) 松平忠直

実子秀頼による豊臣政権の継承を願う秀 吉は、6歳の秀頼と2歳になったばかりの

千姫の婚約を遺言し慶長3年(1598)8月に62年の人 牛の幕を閉じました。関ヶ原の合戦で勝利をおさめ、 慶長8年(1603)2月に征夷大将軍に就任した家康公 は、豊臣恩顧の外様大名たちの思いを斟酌し、徳川 家と豊臣家が和解できるように願い同年7月に、7 歳となった孫の千姫を大坂城の秀頼のもとに輿入れ させました。立場は違ったものの、徳川家と豊臣家 が一つになれば、国が治まるとする考えは秀吉と同

じだったのです。 しかしその期待 はなかなか現実 のものとはなら ず、家康公の心 労は長く続くこ ととなりました。

58



豊臣秀頼(養源院・京都市東山区)

問題54

慶長10年(1605)、将軍職を秀忠に譲った家康公は、 政治の実務に一定の距離を置くため、慶長12年 (1607)に秀忠がいる江戸城とは別の場所に居城を 移します。そこはどこでしょうか?

(1) 岡崎城

(2) 駿府城

(3) 二条城

(4) 浜松城

応仁元年(1467)に勃発した応仁の乱を契 機に幕府の権力は凋落し、日本の国は下克 上が蔓延る長い戦乱の世となりました。織田信長と 豊臣秀吉も天下統一は果たしたものの、いずれの政 権も、「為政者は善政を行わなければ存在意義がな い|という誇りに乏しく、家康公は信長、秀吉の轍 を踏まないよう体制を整えることが急務で、自分に 残された時間が少ない事をよく知っていました。慶 長10年(1605) 4月、わずか2年で征夷大将軍の職を 秀忠に譲り、政治の実務から離れたのは、将軍職は

徳川家の世襲であ る事を世の中に認 識させ、世の安定 を図る事と、平和 国家樹立に向けた プログラム創りの ためでした。

解答… (2)



駿府城跡(静岡市葵区)

問題55

将軍職を辞し、江戸城から居城を移した家康公が、 自分の周囲に招き集めたのはどのような人物たち だったでしょうか?

- (1) 一族の菩提を弔うための高名な僧侶たち
- (2) 平和国家を持続させるための外交から民政までの幅広い分野の専門家たち
- (3) 武辺話を楽しむための苦楽を共にした譜代の三河の老臣たち
- (4) 山海の珍味を堪能するための京・大坂の調理人たち

解説 駿府城の家康公に近侍し、江戸時代の基礎となる政策の立案に参画したのは、政治担当では本多正純、成瀬正成、竹腰正信。財政担当

では松平正綱。農政では伊奈忠次、大久保長安、彦坂元成。文化および寺社行政では金地院崇伝、南光坊天海、林羅山。貨幣発行は後藤光次。貿易関連では茶屋四郎次郎と角倉了以。外交関係は三浦按針(ウイリアム・アダムス)といった有能な人材たちでした。あらゆる分野を網羅し、平和国家を持続させる

ための政策の立案に務め、 実務に励む江戸城の秀忠 とは異なる視点を持った ことが、265年の長きに わたり平和な江戸時代を 持続させる礎となったの です。



三浦按針(ウィリアム・アダムス)像 (伊東市)

解答… (2)

問題56

家康公が、秀忠の妻 於江に書いて渡したと伝わる「庭訓状(御婦美とも)」とは何を教示した書状だったのでしょうか?

- (1) 徳川将軍家の妻としての歴史認識のあり方
- (2) 江戸城内の建物や庭園などの管理の仕方
- (3) 大奥で使用する多くの女性の使い方
- (4) わが子に対する教育、子育ての心得

解説 家康公にとって心痛となったのが、秀忠 と於江の二男国松(忠長)に対する偏愛ぶり

でした。長男竹千代(家光)は家康公の命により、乳母春日局の手で育てられ、二男の国松は自分の手で育てる事が許されました。自分の手元にいる国松への愛情は自然と深まり、家臣たちも秀忠の後継者は国松と考えるようになっていました。この時に家康公が於江に宛てた戒めの手紙が「庭訓状」です。「幼い

ものが賢いと言ってもそのまま育 てば、一人前の年齢になった時、 気ままな者になり、多くは親の言 うことを聞かなくなるものです」 と論し、家督争いを未然に防止す る内容となっています。

「庭訓状」と全く同じ内容のものであり、 各大名・旗本家によって写された



「家康公御婦美」 (鳥居家所蔵)

問題57

家康公に命じられ、秀忠と於江との長男 竹千代 (家光)の乳母となって家光を養育し、後に大奥総 取締となった女性はだれでしょうか?

(1) 小督局

(2) 春百局

(3) 西郷局

(4) 茶阿局

春日局は皇室から拝領した名で、本名は 福と言い、父は明智光秀家臣の斎藤利三で

す。夫は小早川秀秋の家老稲葉正成で、正勝、正定 の二子をもうけました。関ヶ原の合戦で稲葉正成は 家康公と内通し、小早川秀秋の東軍への参戦を主導 したことから、合戦後に秀秋とうまく行かなくなり、 浪人となりました。慶長9年(1604)に家光の乳母の 募集に応募し採用となり、正成と離婚し江戸に上り ます。秀忠、於江の愛情が家光から離れ、弟忠長に

偏った時には、家光が 次期将軍となるよう尽 カレたことから、家光 から絶大な信用を得る ところとなり、大奥に おける最高の権力者と なり、大奥の制度を整 備しました。

62



春日局像(東京都文京区)

問題58

2代将軍となった秀忠の子で、於江以外の女性(於 静)を母に持つ男子はだれでしょうか?

(1) 徳川家光

(2) 徳川忠長

(3) 保科正之

(4) 松平定信

保科正之が江戸城外で生を受けたのは、

母於静の身分が大奥に属さなかったからで、 於江の嫉妬が原因とするのは俗説です。正之の存在 を知った3代将軍の家光は、寛永9年(1632)の秀忠 没後、将軍家の連枝と認め厚遇し、正之も兄家光に 感謝し律儀に務めたので、慶長4年(1651)、死に臨 んだ家光は正之を枕元に呼び、11歳の若さで4代将 軍に就任する家綱の補佐を託しました。幕閣として 正之が進めた政策は文治政治と呼ばれるもので、末

期養子の禁の緩和や 殉死の禁止、参勤交 代制度の見直しや玉 川上水の開削などが あります。明暦の大 火では江戸城天守閣 の再建を無駄な出費 とし、被災者救済を 優先させました。

解答… (3)



保科正之像(福島県立博物館蔵)

問題59

秀忠の二男で、駿河・遠江・甲斐55万石の大大名となったものの、将軍家の安定・安泰のため改易された家光の弟 駿河大納言とは誰でしょうか?

(1) 徳川忠長

(2) 徳川光貞

(3) 保科正之

(4) 松平家忠

解説 家康公の心痛が現実のものとなったのが 忠長の振る舞いでした。於江と秀忠に甘や

かされて育ち、自分も次期将軍と思い込んでいたのが、家康公の裁定で将軍となったのは兄家光でした。 自分を納得させることができない忠長は、家光や幕府に対し不遜ととれる言動を繰り返し、周囲からは 江戸と駿府の両方に将軍がいると噂されたように、

幕藩体制の強化を図る幕府を困らせる存在となっていたの寛永8年(1631)に関系光が変替を理由に、寛永元が高を理由はに明める。のででは、そのでは、この時では、この過ないである。というである。というでは、このが救いだったと言えます。

64



徳川忠長供養墓 (黒谷金戒光明寺・京都市左京区)

問題60

慶長20年(1615)、大坂夏の陣で真田幸村を討ち取り、家康公から「天下第一、古今無双」と称賛され、天下の名器「初花の茶入」などを賜った松平忠直は家康公の孫ですが、この忠直の父は誰でしょうか?

(1) 信康

(2) 秀康

(3) 秀忠

(4) 忠吉

解説

結城秀康の死去にともない、慶長12年(1607)に越前北庄72万石を相続した忠直は、

同16年(1611)に叔父の2代将軍秀忠の娘の勝姫を正室に迎えたほど期待を集める人物でした。大坂夏の陣ではめざましい活躍をしたものの、次第に幕府を軽んじる言動が目立つようになり、元和9年(1623)には秀忠から隠居が命じられ、豊後府内藩(大分県大分市)へ配流となりました。忠直を一躍有名にしたのは菊池寛の小説「忠直卿行状記」ですが、暴虐非

道な振る舞いは古代中国の暴君の話を脚色したもので事実とは異なります。隠居後の忠直は仏道に帰依し、慶安3年(1650)まで生きています。享年56歳。

解答… (2)



松平忠直寓居跡(大分県大分市)

問題61

大坂夏の陣で豊臣家が滅ぶと、家康公は朝廷に願 い元号を「元和」と改め、全国に「元和偃武」を宣言 しました。元和は"平和のはじめ"という意味です が、偃武とはどのような意味でしょうか?

- (1) 徳川幕府が武をもって国を治める
- (2) 武器を武器庫に収め、文をもって国を治める
- (3) 朝廷に代わり武士が世を治める
- (4) 徳川幕府に従わない者から武器を取り上げる

『書経』の「偃武修文|がその出典で、全国 の人々に対し、徳川幕府を中心とした平和

国家建設が始まったことを宣言したものです。三浦 浄心の『慶長見聞集』には、神奈川県三浦市の農民の 言葉として、「さてもさても目出度き御時代かな、 我ごとき土民までもあんらく(安楽)にさかへ、美々 しき事共を見聞きてのありがたさよ、今がみろく(弥 勒)の世成るべし と記されています。時代が大きく 変化した事を庶民は肌で感じ取っていたのです。全

国の諸藩に善政が敷かれ、 幕府が文治政治に舵を切る には、4代将軍家綱の時代 まで待たなければなりませ んが、国のありかたを明確 に示した改元だったのです。 (東照社縁起絵巻巻二

66



問題62

元和元年(1615)、江戸幕府が発布した「一国一城 令 とは、どんな法令だったのでしょうか?

- (1) 藩財政を立て直すため、最も不要な城を一つ取り壊すべし
- (2) 城は藩政の府として一つ残し、要塞としての他の城は取り壊すべし
- (3) 藩の防衛は自己責任であるから、どの藩ももう一つ城を新築すべし
- (4) 幕府の御用のため、どの藩も幕府に城を一つ差し出すべし

慶長20年(1615)6月に秀忠の名で発令さ れましたが、立案したのは家康公です。こ

れにより安土桃山時代には全国に3000近く有った城 が約170まで激減しました。毛利家のような大藩は **周防、長門を領有し、2城まで許されるのに、長門** の萩城を残し岩国城を破却したことを幕府に伝える と、そこまでする必要は無かったとの回答でした。 幕府への遠慮と支藩統制上の思惑から先走ったもの と思われます。例外規定もあり、幕府の許可があれ ば複数の城を持つことができました。また、この政

策により領民の城下へ の集住が進み、流涌が 円滑となり、経済的な 面でも地方の発展に寄 与した事も見逃せませ h_{\circ}

解答… (2)



岡崎城近世の姿(岡崎城天守閣模型)

問題63

元和元年(1615)、江戸幕府は平和な時代における 武士のあるべき姿、心構えを示した法律を発布し ましたが、それはなんでしょうか?

- (1) 慶安御触書
- (2) 御成敗式目
- (3) 一七条憲法
- (4) 武家諸法度

解説 発令前も似たようなものは有り、従来は 私的な誓約書だったものを、家康公の発案

で金地院崇伝と林羅山が法律として13ケ条の条文に編纂しました。その内容は、1. 文武の奨励 2. 遊楽の禁止 3. 犯罪者隠匿の禁止 4. 謀反人・殺害者の追放 5. 他国人の追放 6. 居城の補修や新造の禁止 7. 隣国の徒党者の上訴 8. 無断婚姻の禁止 9. 参勤作法の指示 10. 衣装の統制 11. 乗輿(乗り物に乗ること)の制限 12. 倹約の奨励 13. 家老らの人選の適正化.

といったものでした。 将軍の交代時には改 訂が行われ、3代将 軍家光は参勤交代の 義務化や大船建造の 禁止などの条文を付 け加えています。



武家諸法度 (南禅寺金地院所蔵・京都市左京区)

問題64

- (1) 戦国乱世により窮乏した皇室および公家の財政を再建させるもの
- (2) 皇室および公家の秩序回復と、果たすべき役割を明文化したもの
- (3) 皇室や公家を幕府の家臣と定めるもの
- (4) 皇室が公家や武家に官位を与える際の基準を定めたもの

解説 応仁の乱(1467)以来、約130年続いた戦 国時代により、京の都は荒廃し、公家のモ

ラルも著しく低下して禁裏の規律も乱れていました。 この法令は不遜な江戸幕府による朝廷への内部干渉 として否定的にあつかわれてきましたが、その内容 はむしろ現代的なもので皇室典範につながります。 これより以前、慶長6年(1601)には徳川家が、朝廷 や公家社会の秩序維持に必要な諸費用の手当を行っ ています。朝廷から大政を委任された江戸幕府が平

和国家建設に向けて動き出した時に、皇室および公家の秩序の回復を不可欠としたのは日本という国の国体を正しく理解していたからです。



京都御所紫宸殿(京都市上京区)

問題65

徳川政権の将来に亘る安定を図るため、家康公の 九男、十男、十一男を藩補に後に御三家が設けら れましたが、御三家筆頭 尾張徳川家の藩祖となっ たのは誰でしょうか?

(1) 秀康

(2) 義直

(3) 頼官

(4) 賴房

徳川義直は家康公の九男。母は於亀の方 で、慶長5年(1600)11月28日に大坂城で誕 生しました。十男頼宣、十一男頼房と共に、駿府に 居城を移した家康公の膝下で教育を受ける事ができ た点が他の兄弟たちと異なります。慶長8年(1603) に甲斐25万石、同12年(1607)に尾張53万石の領主と なりますが、駿府の家康公のもとで育ち、名護屋城 に入ったのは元和2年(1616)になってからの事です。 以後、木曽の山林や美濃(岐阜県南部)で5万石を加

封されるなど御三家 筆頭として優遇を受 け、同5年(1619)に は61万9千石となり ました。付家老の犬 山城主成瀬氏は岡崎 市六名町がその出自 です。



徳川義直肖像(徳川美術館所蔵・名古屋市)

問題66

徳川御三家とは、尾張徳川家、水戸徳川家とどこ の徳川家でしょうか?

(1) 会津

(3) 紀伊

御三家は親藩の中で最高位にあり、御三 卿と共に徳川姓を名乗る事と、三つ葉葵の

家紋の使用が許されていました。また、将軍家に後 継ぎがいない場合は、8代将軍吉宗のように、尾張 か紀伊から養子を出しました。水戸は25万石と石高 が低く、官位も尾張と紀伊が大納言であったのに水 戸は権中納言と低いため、家格も一段低く見られて いました。しかし、水戸は江戸に近く参勤交代をし ない江戸定府の家柄として、将軍家の補佐役とも目 されました。吉宗からは田安、一橋、清水の御三卿

が創始され た事から、 紀伊の血筋 が徳川家の 中で多くを 占めるよう になりまし た。



和歌山城天守閣(和歌山県和歌山市)

問題67

家康公の子のなかで、ただ一人岡崎城で誕生した のは誰でしょうか?

かめひめ

(1) 亀姫

(2) 客船

(3) 信康

(4) 秀康

解説 督姫は家康公の二女として永禄8年 (1565)12月に岡崎城で誕生しました。母は

家康公の最初の側室となった西郡の方です。西郡の方は鵜殿長持の娘で、永禄5年(1562)に家康公が上ノ城(蒲郡市神ノ城)を攻め、今川家臣 鵜殿長持の二子を捕虜とし、駿河に残る妻瀬名姫(築山殿)と長男竹千代、長女亀姫を人質交換で取り戻そうとした時に、鵜殿長持から差し出されました。瀬名姫が人質から解放されたのは、西郡の方の兄弟のおかげで

あり、また、瀬名 姫が岡崎に来た時 には、既に西郡の 方が居たわけで初 から、二人の初す もどのようでし ったの うか。



督姫(東京国立博物館蔵)

問題68

家康公の男子のなかで、滅亡した武田家の名跡を継いだものの生来病気がちで21歳の若さで亡くなったのは誰でしょうか?

(1) 忠輝

(2) 忠長

3) 忠吉

(4) 信吉

解説

家康公の五男として天正11年(1583)9月 に浜松城で生まれました。母は旧武田家の

家臣秋山虎泰の娘於都摩、下山殿と呼ばれました。 幼名は福松丸です。甲斐武田家の断絶を惜しんだ家 康公により、武田家所縁の下山殿が生んだ子供であ ることから、武田信玄の二女見性院が後見人となり、 旧武田領に領地を得て武田七郎信吉を名乗りました。 天正19年(1591)に下山殿が亡くなると見性院が養母 となり下総佐倉(千葉県佐倉市)10万石に封じられ、 慶長7年(1602)に常陸水戸(茨城県水戸市)25万石に 移封されますが、

翌年9月、生来病弱のためわずか21歳でこの世を去りました。



信吉の菩提寺「常福寺」(茨城県那珂市)

問題69

豊臣家派で後の大坂城を欲したとも伝わる問題児で、伊達政宗の娘五郎八姫を正室(妻)に迎えた家康公の男子は誰でしょうか?

(1) 忠輝

(2) 忠長

(3) 忠吉

(4) 信吉

解説 天正20年(1592)1月、家康公の六男として江戸城で誕生しました。母は茶阿局、辰

年生まれであったことから幼名は辰千代とされました。下野栃木城主皆川広照が養育にあたり、慶長4年(1599)1月、七男で同母弟の松千代が早世したため、その後を受け長沢松平家の家督を相続し、武蔵深谷1万石となり、同7年(1602)に下総佐倉(千葉県佐倉市)5万石へ加増移封され、元服して上総介

忠輝を名乗りました。 同8年(1603)2月に信 濃川中島(長野県高井郡)12万石へ加増移封 され、同11年(1606)12 月、家康公の方針で有 力大名との縁戚関係を 深めるため、伊達政宗 の長女五郎八姫を娶り ました。



松平忠輝像(貞松院蔵・長野県諏訪市)

問題70

家康公の八男で、家臣の平岩親吉に養子に出され たものの、幼少で亡くなったのは誰でしょうか?

(1) 於義丸

(2) 竹千代

(3) 仙千代

(4) 松千代

解説

施 徳川十六神将の一人に数えられる平岩親 吉と家康公は同年で、人質時代から常に臣

従した最も信頼できる家臣でした。家康公長男の信康の傅役を任されましたが、天正7年(1579)9月に信康が切腹すると自ら責任を取り蟄居謹慎しました。家康公の再三の召し出しにより再び出仕し、家康公の関東移封では、上野厩橋(群馬県前橋市)3万3千石を領しました。慶長4年(1599)、家康公は子供に恵まれない親吉に八男仙千代を養子として与えましたが、翌5年にわずか6歳で夭折してしまいました。

親吉は犬山12万 3千石を領しま したが、同12年 (1607)に親吉の 死にともない平 岩家は無嗣断絶 となりました。

解答… (3)



平岩親吉肖像(平田院蔵・名古屋市)

問題71

大坂夏の陣の不行跡を理由に改易されながらも、 三英傑に受け継がれた「野風の笛」を家康公から形 見に渡され、5代将軍綱吉の時代まで生きて、 配流先の信州諏訪で93歳の長寿を全うした家康 公成の第子は誰でしょうか?

(1) 忠輝

(2) 忠長

(3) 忠吉

76

(4) 信吉

元和2年(1616) 7月、忠輝は前年の大坂夏の陣での不行跡が問題にされ、兄秀忠から改易されました。配流先は伊勢朝熊から飛騨高山と代わり、信濃諏訪に落ち着きました。五郎八姫は改易にともない、仙台の父のもとに帰りました。忠輝は驚くほどの長寿で、天和3年(1683) 7月に諏訪高島城で天寿を全うした時は92歳となっていました。信長、秀吉から家康公へと伝わる「野風の笛」は、家康公が母の茶阿局を通して与えたもので、現在は菩提寺の貞松院(長野県諏訪市)に保存されています。三百回忌となった昭和59年(1984)に貞松院は徳川宗家に赦免を願い、18代当主徳川恒孝氏はこれを許しました。

「野風の笛」(貞松院蔵・長野県諏訪市)

問題72

家康公の娘で、小田原の北条氏道のもとに嫁ぎ、 北条氏滅亡後は姫路の池田輝政に再嫁したのは誰 でしょうか?

1) 勝姫

(2) 亀姫

(3) 小松姫

(4) 督姫

解説 本能寺の変により天正10年(1582)に織田 信長が死去すると、空白地となった甲斐、

信濃、上野をめぐり家康公と北条氏直の戦が始まり、両者の力が拮抗したため、話し合いで甲斐、信濃を家康公が、上野を北条氏直が領有する事で落ち着き、和睦の条件として、19歳の督姫は北条氏直のもとに輿入れをしました。天正18年(1590)の秀吉による小田原攻めで北条氏は滅亡し、夫氏直は高野山に流され、赦免されるも翌年には死去してしまいます。家康公のもとに戻った督姫は文禄3年(1594)、秀吉の

仲人で池田輝政に再嫁し、 5男2女をもうけ、輝政 没後、慶長20年(1615)に 姫路城で死去しました。 享年51歳。



池田輝政像(鳥取県立美術館蔵)

問題73

家康公の孫 千姫は大坂の陣で夫を亡くし、翌、元和2年(1616)、譜代の大名家に再嫁します。当時、桑名城主で、翌年、姫路に移封となったこの大名家の嫡男(再婚相手)は誰だったでしょうか?

(1) 井伊直孝

(2) 酒井忠勝

(3) 榊原忠次

(4) 本多忠刻

解説 本多忠刻は徳川四天王のうち岡崎市民に 最も親しみ深い本多忠勝の孫に当たります。

父は忠勝の長男忠政で、母は家康公の長男信康と織田信長の長女の間に二女として生まれた熊姫です。 忠刻は大変な美男子で優雅な所作は誰もが振り返る ほどであったと言います。その一方で武術を好み、 剣豪宮本武蔵を呼び寄せ師事し、家臣にも学ばせて います。また、千姫の父は家康公の三男で2代将軍 となった秀忠で、母は於江です。祖母の於市は織田



姫路城西丸内部(兵庫県姫路市)

問題74

元和2年(1616)、遺言により駿河国内に埋葬された家康公は東照大権現となり、翌年、1周忌を終えるとある場所に改葬されました。新たに東照宮が建てられたある場所とはどこでしょうか?

(1) 久能山

(2) 日光山

(3) 富士山

(4) 三河湾

解説 家康公は遺言で、「遺体を久能山に納め、 葬礼を増上寺に申し付け、位牌を三河の大 まきに立て、一周己を過ぎて後に日光山に小さき党

樹寺に立て、一周忌を過ぎて後に日光山に小さき堂をたてて勧請せよ、関八州の鎮守とならん」との言葉を残しています。神道学者で日光東照宮禰宜の高藤晴俊氏は、「久能山東照宮の拝殿、本殿は南南西を向き、拝殿で参拝すると、その先には富士山を越えて日光山があります。久能山東照宮で拝礼することは霊峰富士山と日光東照宮を拝む形となる」との説をとなえます。また、江戸の真北に位置する日光

山は、神となった 家康公の霊も北に 鎮座することから、 やはり、関八州の 鎮守となるのにふ さわしい場所なの です。



日光東照宮陽明門(栃木県日光市)

問題75

元和6年(1620)、2代将軍 秀忠の五女が後水尾 天皇のもとに入内し中宮(皇后)となりましたが、 この娘の名前は次のどれでしょうか?

(1) 汽车

(3) 京子

(4) 和子

朝廷との関係の深化を願う家康公は、2 解説 代将軍秀忠の五女和子の入内を申し入れ、

慶長19年(1614)に入内宣旨が出されました。その後 に大坂の陣、家康公の薨去、後陽成院の崩御と不幸 が続き、元和6年(1620)6月になってやっと後水尾 天皇の中宮として入内させる事ができました。朝廷 と墓府の良好な関係は続き、元和9年(1623)に和子 が懐妊し、同年6月に秀忠と家光が将軍官下を受け

るため上洛し、禁裏御領 1万石を寄進しました。 初の子供の女一宮が誕生 したのは11月の事でした。 その後、後水尾天皇との 間に2皇子5皇女が誕生 しましたが、二人の皇子 はともに夭折してしまい ました。

80



東福門院和子像 (南禅寺光雲院蔵・京都市左京区)

問題76

元和9年(1623)、将軍職を辞した秀忠は、家康公 の政治手法を踏襲し、3代将軍 家光と二元政治 を行いました。将軍職を辞した秀忠は何と呼ばれ たでしょうか?

おお ご しょ (1) 大御所

(2) 関白

(3) 公方

(4) 相国

律儀な秀忠にとって家康公は常にお手本 でした。家康公薨去から既に7年、元和9 年(1623)に秀忠は家光への将軍職の譲位を決意しま した。同年6月に秀忠と家光は上洛し、7月27日に 伏見城において家光は征夷大将軍宣下を受けました。 これにより徳川家による将軍職への就任は3代目、 周囲は家光に天下が譲られたと受け止めましたが、 秀忠の考えは違っていました。家康公がしたように、 居所を江戸城西の丸に移し、秀忠も大御所となりま した。しかし、現実の政治から離れられませんでし

た。 寛永 4年(1627)に 後水尾天皇が幕府に無 断で紫衣を勅許した紫 衣事件が起こり、秀忠 は対応に苦慮していま す。

解答… (1)



江戸城西の丸大手門 (皇居入口・東京都千代田区)

問題フフ

水戸黄門で知られる徳川光圀は徳川頼房の三男で す。光圀からみて、家康公はどんな関係(続柄)に なるのでしょうか?

(1) 曾祖父

(2) 相父

(3) 叔父

(4) 父

光圀の幼名は長丸。 寛永 5年(1628) 6月 解説 に水戸藩の藩祖頼房の三男として水戸城下

で生まれました。母は谷久子。寛永10年(1633)11月 に世継ぎに定められ、翌月から江戸小石川の藩邸で 世子教育を受けることになりました。翌11年には将 軍家光に拝謁し、同13年に元服し、光圀の名前は家 光からおくられたものです。17歳の光圀は一時身を 持ち崩し、18歳で司馬遷の『史記』を読み感銘を受け、 これが水戸藩における『大日本史』の編纂の始まりと

なりました。おな じみの水戸黄門は、 隠居後に水戸藩内 を巡視した話から 創作されたもので、 実際の光圀の行動 範囲は関東一円に 限られました。

82



水戸光圀肖像(京都大学図書館所蔵)

問題78

後水尾天皇と秀忠の五女(家康公の孫娘)との間に 生まれた女一宮(娘)が、寛永6年(1629)、第109 代天皇として即位します。この女性天皇をなんと 言うでしょうか?

げんめい (1) 元明天皇

(2) 孝謙天皇

(3) 斉明天皇

(4) 明正天皇

寛永 4 年(1627) の紫衣事件から、幕府と 朝廷との関係は歯車が狂い始めます。春日

局の参内も天皇の権威を失墜させるもので、怒った 後水尾天皇は徳川家から入内した和子との間に生ま れた7歳の女一宮を興子内親王とし、天皇の位を興 子内親王に譲位し、自分は後水尾上皇となってしま いました。女一宮は突然、明正天皇となったのです。 女帝の誕生は称徳天皇以来859年ぶりのことでした。 退位した後水尾上皇は院政を敷き、朝廷における実 権はそれまでと何ら変わりませんでした。明正天皇 は21歳で異母弟の後光明天皇に譲位しますが、和子

は後光明天 皇を養子と し、夫と徳 川家の双方 の面目を守 りました。



明正天皇墓所「月輪陵」(御寺泉涌寺・京都市東山区)

問題79

寛永11年(1634)より開始された日光社の大造営 (大規模増改築)に合わせ3代将軍 家光は岡崎の 寺社を次々と修復・整備しましたが、それらはど のような寺社だったでしょうか?

- (1) 松平氏、徳川氏ゆかりの寺社
- (2) 皇室ゆかりの寺社
- (3) 東海道沿いの寺社
- (4) 三河一向一揆の際に家康公が破却した一向宗の寺社

解説 祖父の家康公に対し畏敬の念が厚い家光は、先祖の地である岡崎への思いも深く、

寛政11年(1634)に始まった日光東照宮の大造営に合わせて、松平氏、徳川氏ゆかりの寺社の大造営を行いました。大樹寺は徳川将軍家の菩提寺にふさわしい規模と、威厳のある形に整えられ、伊賀八幡宮と六所神社は本殿、幣殿、拝殿が連結し、華麗な彩色をほどこした権現造の社殿に作りかえられました。松本町の松応寺は日光東照宮よりも早く、同10年に

再建工事が始まっています。 3代将軍家光は寛政期以降 も、岡崎の寺社に寄進を繰 り返し、上洛のおりには立 ち寄って参拝を行っていま す。

84



大樹寺三門(県重文・岡崎市)

問題80

日光社の大造営に合わせ、3代将軍家光により新たに岡崎に建立・造営された寺社はどれでしょうか?

- (1) 岡崎天満宮
- (2) 滝山寺
- (3) 滝山東昭宮
- (4) 龍城神社

解説

日光東照宮の大造営を終えた家光は、先祖の地である岡崎にも東照宮が必要と思い

立ち、正保元年(1644)10月、大樹寺境内に東照宮の建立を命令しました。同年11月に松平正綱と大工頭木原義久が現地調査に訪れ、造営地は滝山寺の本堂に隣接した土地に変更されました。正保3年8月に造営工事は完了し、9月に正遷宮が行われ、将軍家光の代参として寺社奉行が、世子家綱の代参には高家が参列し執り行われ、警固は岡崎藩水野氏が務めました。また、正遷宮に合わせて狩野探幽筆の三十

六歌仙図扁額が献納されています。 本殿、拝殿、幣殿、中門、水屋、石柵、 灯籠は国の重要文化財に指定されています。

解答… (3)



滝山東照宮本殿(国重文・岡崎市)

問題81

寛永11年(1634)、家光の上洛を機に本格的な板橋 に造り替えられ、江戸期をとおして日本一の長さ を誇った橋はどれでしょうか?

(1) 木曽大橋

- (2) 京 三条大橋
- (3) 江戸 日本橋
- (4) 岡崎 矢作橋

歌川広重の代表作、「東海道五十三次 に 必ず矢作橋が描かれるように、江戸時代の

矢作橋は、日本一の長さを誇る全国的に有名な橋で した。岡崎宿のシンボルであり、ランドマークにも なっていました。初めて矢作川に架橋されたのは慶 長6年(1601)の事で、当時の岡崎城主で、土木工事 の専門家としても知られた田中吉政が手がけた工事 です。大水のために矢作橋は何度も流されています が、江戸時代の矢作橋は官橋であったため、修復費 用は幕府が負担していました。日本人に限らず、江

戸参府が義務付 けられていたオ ランダ商館長に **随行したシーボ** ルトは規模に驚 き、絵図に描か せ模型まで創ら せています。

86



矢作橋(葛飾北斎・画)

問題82

寛永12年(1635)、武家諸法度を改訂し、家光が各 大名などに義務づけした制度で、原則として諸大 名は一年ごとに江戸と自領とを行き来し、妻子は 江戸に常住するよう定めたものを何というでしょ うか?

- (1) 一国一城令
- (2) 参勤交代

(3) 定府

(4) 転封

厳しい大名統制という面にスポットが当 解説 たりがちですが、江戸時代も家光の代に入

ると世情も落ち着き、商品流通も盛んになっていま した。参勤交代の費用は莫大ですが、格式を重んじ る大名たちは、進んで大名行列の様式美を競いまし た。石高に合わせ多数の侍が旅をし、庶民も寺社参 拝の旅をしたので、街道筋の賑わいは外国人を驚か せました。5代将軍綱吉の時代に来日したオランダ 商館の医師ケンペルは、旅人の数の多さが、ヨーロッ パと比較にならないと著書『江戸参府旅行日記』に記

しています。また. 参勤交代で得た知識 が全国に広がり、日 本経済を底上げした 事も近年の研究で分 かってきました。

解答… (2)



熊本藩大名行列図 (鶴崎剣八幡所蔵・大分県鶴崎市)

問題83

3代将軍 家光が実施した「鎖国」とは、幕府が独 立国の政府として外交と貿易を掌握する手段とし て実施した政策で、宗教と貿易の分離をはかった ものでした。この「鎖国」の内容について誤ってい るのはどれでしょうか?

- (1) ポルトガル船の来航を禁止した
- (2) 平戸のオランダ商館を長崎の出島に移した
- (3) オランダを除く一切の国との貿易を禁止した
- (4) 李氏朝鮮と琉球からは通信使などが来日した

江戸時代の日本にも海外から色々な珍し 解説 いものが持ち込まれ、高価な値段で取引さ

れていました。取引相手国は李氏朝鮮、琉球、オラ ンダで、中国と蝦夷地のアイヌ民族は私貿易でした。 いずれのルートからも海外の情報は入手され、江戸 幕府はたいていの情報は公開していました。事実、 鎖国という言葉は江戸時代には無く、蘭学者志筑忠 雄がケンペルの著書『日本誌』の一部を翻訳し、造語 したのが幕末のことです。しかもケンペルは鎖国を 極めて当然の政策として肯定しています。鎖国が否

定的に使われたのは明治時代か らで、欧米追随を文明開化と言 い換え、自国の文化を否定した 明治の指導者たちでした。

88



長崎出島資料館(長崎市)

問題84

寛永14年(1637)、幕府が鎖国政策をとる原因とも なった事件が起こりました。その事件とは次のど れでしょうか?

- (1) イスパニア艦隊の来航

(3) 島原の乱

(4) 由比正雪の乱

解説

解答… (3)

ポルトガルやスペインの宣教師はキリス ト教を広め、異教徒の国をキリスト教国と

する事を使命としていました。国のあり方を否定す るわけですから、日本にとっては危険な存在でした。 家康公だけでなく豊臣秀吉もこれに気が付き、慶長 元年(1596)にキリスト教徒の処刑や宣教師の追放を 行っています。ひとくちにキリスト教徒と言っても

当時と今では大きく異なり、 狂信的な者たちも多くみら れました。また乱鎮圧には、 オランダ商館の軍艦も加わ り艦砲射撃をしたという説 もあります。乱鎮圧後の代 官鈴木重成の命を捨てた善 政に、領民は感謝を込め、 村々に「鈴木塚」を立て、「鈴 木神社 を建立しました。



天草四朗像 (原城址・長崎県南島原市)

問題85

3代将軍家光が寄進した本殿、拝殿などの権現 造りの社殿が、現在、国の重要文化財になってい る岡崎市にある神社で、家康公の産土神として知 られるのはどこでしょうか?

(1) 菅生神社

(2) 龍城神社

(3) 六所神社

(4) 矢作神社

権現告の荘厳な社殿は寛永11年から13年 (1634~1636)に造営され、本殿、幣殿、拝

殿、楼門、神供所が国の重要文化財に指定されてい ます。この時の朱印状に、「東照大権現有降誕之霊 神也、是以崇敬異他 とあるように、家光は、「家康 公の生誕は六所神社の霊神のおかげであり、神社へ の崇敬の気持は他の神社とは異なる としています。 徳川氏とのゆかりは古く、松平氏初代親氏が加茂郡 の六所山に勧請した事に始まります。この地への勧

請は松平氏7代清 康が岡崎城を手に 入れた時の事で、 天文11年(1542)に 家康公が牛誕した 時も、産土神とし ての参拝がありま した。



六所神社楼門(国重文・岡崎市)

問題86

3代将軍家光は、保科家の養子となっていた正 之を将軍家の連枝(兄弟)として認め、大名として 処遇しました。寛永20年(1643)、保科正之が藩祖 となり、明治まで続いたのは何藩でしょうか?

- (1) 越前 福井藩67万石 (2) 肥後 熊本藩51万石
- (3) 三河 岡崎藩 5万石 (4) 陸奥 会津藩23万石

家光から、会津23万石の大名として遇さ れた保科正之は、家中に『会津家訓十五箇

条』を定め、会津藩を何があっても将軍家を守り抜 く存在と定めています。会津藩には日新館という藩 校が有り、人格教育に力を入れていました。また、 藩校に入学する前の幼い子は近隣同士で集まり、毎 朝『什の教え』を唱えました。それは、年長者の言う ことを聞く、年長者にお辞儀をする、虚言を言わな い、卑怯な振舞をしない、弱いものをいじめない、 戸外で物を食べない、戸外で婦人と言葉を交わさな

い、ならぬことはなら ぬ、と言うものです。 このような理不尽なま での愚直さが、保科正 **之から伝えられた会津** の伝統でした。



藩校会津日新館(福島県会津若松市)

問題87

3代将軍 家光は慶安4年(1651)4月に没します が、病の床に弟の保科正之を呼び寄せ将軍家の行 く末を託しました。11歳の4代将軍 家綱を補佐 し、これまでの政治を大転換させた正之の政治を 何と呼ぶでしょうか?

(1) 二元政治

(2) 武断政治

(3) 文治政治

(4) 民主政治

保科正之の政治思想は家康公の政治思想 解説 をまっすぐに受け継いだものでした。この

時代は政治が大転換した時代と言われますが、家康 公が「元和」と改元した時から、その準備は始まって いました。この時代になり、武士や庶民、宗教家、 はては公家や朝廷までが、平和の心地よさを素直に 感じ始めました。そうした時代の空気をとらえ、政 策に反映させたのが保科正之です。正之の政策の根 底には、人の命を大切にする事が安心な社会を形成 する、と言う理念が貫かれ、その普及を図ったのが

慶長4年(1599)に始まる家康 公の出版事業でした。保科正

を文治政治 で証明して

92

火除地のための広場が 「広小路」であり、不要 な時は芝居小屋などが 見せました。建ち賑わっている



(江戸東京博物館)

問題88

保科正之が人口の増えた江戸の飲用水を確保する ために、新たに開削させた上水道は次のどれで しょうか?

(1) 神田上水

(2) 宝川上水

(3) 本所上水

(4) 三田上水

玉川上水は承応元年(1652)に着工し、2 年の工期で完成しました。総延長が80キロ

にもおよぶ大工事で大量の給水が可能になりました。 三角測量により高低差の激しい江戸の地形を克服し、 驚くほどの正確さで江戸市中に水道網を張り巡らせ ました。時代劇で、長屋の井戸の周りに女性が集ま り井戸端会議に興じるシーンが登場しますが、あの 井戸の下には木製の上水道が敷設されています。こ れ以前の水道が神田上水で、天正18年(1590)に家康 公の命で開削されました。英国でも1613年に、ロン

ドンにト水道が整 備されましたが、 地上に建設された もので、衛生面で は日本の方が優っ ていました。



玉川上水(東京都)

問題89

「明暦の大火」では江戸城も被災しました。復興に当たり保科正之が、平和な時代においては無駄な出費と反対し、再建されなかったのは何でしょう?

(1) 大奥

(2) 外堀

(3) 天守閣

(4) 西の丸庭園

解説 明暦 3年(1657) 1月に発生し、江戸市中の6割を焼き尽くし、10万人が焼死した大火災です。保科正之は天守閣の再建費用を、反対する老中を説得し、被災者救援と江戸市街の再開発に振り向けた復興事業を実施しました。銀3万貫を被災者の生活救済に当て、江戸再開発では火災に強い町造りをしました。道路を拡幅し火除け地を設け、



焼跡の残る江戸城天守台 (東京都千代田区)

解答… (3)

問題90

江戸時代をとおして多くの大名が改易されていますが、その8割以上は幕藩体制が確立されるまでの、初代から三代将軍の間に集中しています。 次の中で、もっとも多くの大名家を改易した将軍は誰でしょうか?

- (1) 初代将軍 徳川家康 (2) 2代将軍 徳川秀忠
- (3) 3代将軍 徳川家光 (4) 4代将軍 徳川家綱

解説 戦国乱世から平和国家への大転換期にあたり、安定した徳川政権の基盤づくりのため、大名改易(除封)は幕府創成期の家康・秀忠・家光の3代の時代に集中しました。そして幕藩体制が確立し、文治政治に移行した4代・家綱以降は、大きく減少していきます。改易した大名の数は、家康公が最多の約90家ですが、そのほとんどは関ヶ原合戦での西軍大名の処断であり、将軍在位中の2年間に限れば1件しかみられません。秀忠、家光の将軍

在位中は、ともに50~55家程ですが、問題の採りようや準拠資料により答えが異なってしまうため、この問題では、(1)~(3)をすべて正解としました。



福島正則改易の原因となった 広島城石垣の跡(広島市)

問題91

後の8代将軍徳川吉宗は、家康公のどの男子の 子孫でしょうか?

(1) 秀忠

(2) 義直

(3) 頼官

(4) 賴房

徳川幕府の将軍職は、宗家の世襲が原則 でしたが、もしも宗家に世継ぎが誕生しな

かった場合に備えて「徳川御三家」が置かれ、そこか ら世継ぎを決定するという仕組みにしてありました。 御三家というのは、尾張徳川家・紀伊徳川家・水戸 徳川家の三家を指します。家康公の九男・義直が尾

張徳川家を、十男・ 頼宣が紀伊徳川家を、 そして十一男・頼房 が水戸徳川家を立藩 しました。8代将軍 吉宗は、紀伊徳川家 5代目の当主にあた りますが、将軍家の 養子として江戸城に 入り将軍職を継ぎま した。

96



徳川頼宣像(和歌山県立博物館)

問題92

幕末に京都守護職として禁裏(朝廷)を守護し、戊 辰戦争では藩祖の遺言を守り、最後まで将軍家を 守って薩長軍と戦った松平容保の家は、家康公の どの男子の系統でしょうか?

(1) 信康

(2) 秀康

(3) 秀忠

(4) 忠吉

会津松平家の祖は、保料正道です。正之 は2代将軍秀忠が唯一正妻(江姫)以外の女

性(通称お静)に産ませた御落胤でした。そのまま子 として育てなかったのは、母親が大奥勤めの侍女で あった(「会津家実記」)からで、正室が認めた側室で はなかったからです。正之の幼名は幸松と言います が、幸松は高遠藩主の保科正光の養子となります。

後に、正之の存在を知った家 光が、父・秀忠との対面を取 り成したことでも有名です。 正之は家光に可愛がられ、会 津15万石の大名に抜擢、松平 姓を許されます。しかし正之 は保科家の恩義を忘れず、3 代目からようやく松平姓を名 乗るようになったのです。



松平容保像(会津若松市所蔵)

問題93

岡崎市では毎年4月の第1日曜日に「家康行列」を 開催していますが、出発地点は、松平家の氏神で、 松平軍が出陣の際、戦勝祈願をした神社です。こ の神社はどこでしょうか?

- (1) 伊賀八幡宮
- (2) 岡崎八幡宮
- (3) 鶴岡八幡宮
- (4) 若宮八幡宮

伊賀八幡宮は松平家の氏神でもあり、徳 川将軍家の祈願所でもありました。松平4 代親忠の創建ですが、大樹寺より少し早く建てられ、 大樹寺は伊賀八幡宮の氏寺という関係にあります。 3代将軍家光の時に社殿が拡張修理され、随神門な どが建てられました。さらに東照公も御祭神として 勧請され、江戸時代の史料には「御相殿」と表記され ています。これは祭神が複数の場合「相殿」と言うの ですが、特に東照公が合祀されているので「御相殿」

と言うのでしょう。 岡崎藩祖本多忠勝 の命日(10月18日) には岡崎藩士たち が伊賀八幡宮から 岡崎城まで行進し たとも伝えられま す。

98



伊賀八幡宮随神門(国重文・岡崎市)

問題94

「家康行列」は、岡崎藩主だった本多家が藩祖 忠 勝を祀る映世大明神を参詣する際に、藩主を先頭 に家臣一同が鎧兜を身に着けて行軍したのが由来 になっています。この映世大明神は、明治になっ て岡崎城内にあった家康公を祀る東昭宮と合体し、 神社となりましたが、この神社はどこでしょう かっ

(1) 犬頭神社

(2) 白山神社

(3) 龍城神社

(4) 六所神社

解答… (3)

龍城神社の前身は、岡崎城内にあった「映 世大明神 と 東照宮 です。映世神社の御

祭神は藩祖の本多忠勝です。これはもともと忠勝の 長男・忠政が姫路藩主の時、城内に「映世霊神」を 祭ったのが始まりで、本多家が転封する毎に映世神 社も奉遷されてきました。岡崎城には本多忠粛の時 (1770年)に遷座します。東照宮は三の丸にありまし たが、明治9年(1876)映世神社に合祀され龍城神社

となりました。文化6年 (1808)以来、藩主は藩祖 忠勝の命日(10月18日)に は武装して行列を行い、 これが現在に家康行列の 原型となっています。



龍城神社(岡崎公園)

問題95

松平家の菩提寺 大樹寺には、歴代将軍の亡くなったときの身長と同じ高さに作られた位牌がありますが、家康公の位牌の高さは何センチでしょうか?

(1) 149cm

(2) 159cm

(3) 169cm

(4) 179cm

解説 大樹寺の歴代将軍御位牌が、生前の身長と同じ高さであると伝えられます。このことから家康公の身長は159cmであったことが類推されています。また、主に「徳川御実記」に記された史料などから、家康公は日々粗食を心がけ、運動を欠かさなかったという健康管理法が伝えられています。生涯を通して健康に人一倍気を遣い、薬も自ら調合したという記録が残されています。当時の日本人男

性の平均的なそ 150cm~155cm と予想されていますから長すなは長入ったの部類にしょう。



歴代将軍位牌(大樹寺・岡崎市)

問題96

明応2年(1493)、松平弾正左衛門信貞により創建された寺院で岡崎城の北に位置し、松平7代清康、清康の正室春姫(波留姫)、そして家康公の父広忠の墓があるこの寺はどこでしょうか?

(1) 広忠寺

(2) 松応寺

(3) 大樹寺

(4) 大林寺

解説 大林寺は清康が岡崎城主になる前までの 岡崎松平氏(西郷氏)の菩提寺でした。現在

の岡崎城に隣接していたことからか、清康、正室の春姫(波瑠姫)、広忠の墓があります。そして興味深いのが、3人の墓と共に置かれている不思議な形をした岩の存在です。ご住職のお話によれば、尾張から人質解放されいったん岡崎城に戻った竹千代が、不慮の死を遂げた父・広忠のために立派な墓を立てるときの目印に置かせた岩だということです。事実

の程を問うこと よりも、幼い竹 千代の父を思う 気持ちが伝わっ てくるようです。



松平廟(大林寺・岡崎市)

問題97

次の松平・徳川家の6人の嫡男の中で、岡崎生まれは何人でしょうか?

<清康、広忠、家康、信康、秀忠、家光>

(1) 1人

(2) 2人

(3) 3人

(4) 4人

解説 清康は安城城で生まれました。したがって「安城松平家」の4代目ということになり

ます。その後、13歳の時に岡崎に進出しましたので、松平宗家は安城から岡崎に移ったことになります。 広忠と家康公は岡崎城で生誕しました。しかし、家康公の子供からは岡崎生まれではありません。信康は駿府で生まれています。家康公がまだ自立する前のことです。二男の秀康は浜松の宇布見村で、三男の秀忠、四男の忠吉は浜松城で生まれています。ま

た3代将軍 家光は江戸 城での生誕 ですね。



家康公生誕の岡崎城内坂谷邸付近(岡崎公園)

問題98

常生 がわ まとがわ 菅生川(乙川)の南にあった岡崎城を、現在の位置 (川の北側の竜頭山の場所)に移したのは誰だった でしょうか?

(1) 清康

(2) 家康

(3) 信康

(4) 家光

解説 清康は多くの歴史遺産を岡崎に残していますが、現在の岡崎城も正しくは岡崎城址

公園として、中世城郭の特徴を今によく伝えています。岡崎城がもともと菅生川南岸(明大寺町)に立地していたことはよく知られていますが、その頃は現在の岡崎城は砦のような簡素な造りであったようです。もともと三河守護代であった西郷頼継によって構築された砦でしたが、清康は整備拡張を行い、三河地方では屈指の城にしました。その後、家康公の



菅生川南岸から見た龍頭山と岡崎城天守閣

問題99

家康公の祖父 清康が誕生してから、戦乱の時代 に終わりを告げる元和偃武まで、およそ何年か かったでしょうか?

(1) 50年

(2) 100年

(3) 150年

(4) 200年

解説 元和優武とは、大坂の陣が終了してから、 元和元年(1615)に幕府によって天下の平定

がなったことを宣言したものであり、「武を優る」という意味があります。応仁元年(1467)、京都で応仁の大乱が勃発してからおよそ150年が経っていました。また清康の生誕は永正8年(1511)9月と伝えられていますから、およそ100年を経過したことになります。清康が岡崎城に進出して以来、広忠、家康公と代を継ぎ、ようやく平和な世の中を作り上げる

のに膨大な時 を費やしてき たことが理解 できますね。

104



徳川の歴史を演ずる「グレート家康公葵武将隊」

問題100

平成15年(2003)に徳川記念財団を立ち上げられた 徳川恒孝様は、家康公から数えて徳川宗家の何代目でしょうか?

(1) 14代

(2) 16代

(3) 18代

(4) 20代

本説 江戸幕府最後の将軍は徳川御三卿一橋家 から宗家を継いだ徳川慶喜でした。慶喜は

国内の大乱を防ごうと大政奉還を行い隠居し、同じく御三卿の田安徳川家の幼い家達が16代を継承して駿府70万石の大名となり、廃藩置県の後、公爵として長く貴族院議長を務めました。その長男17代家正は外交官とし、また最後の貴族院議長として活躍。その後継者18代に孫である会津松平家の恒孝を養子として迎えました。それが現在の徳川記念財団の理事長である徳川恒孝氏です。徳川の血は岡崎より生

まれ、470年を経た現代に至るまで、その平和思想と共に綿々と続いていることを誇りに思います。



第18代当主徳川恒孝氏(中央) 平成23年第2回家康公検定表彰式(岡崎長誉館)